2010年度海外巡検（国際大学交流セミナー「中国遼寧省・河北省の都市と文化遺産」）に関する報告

内田　順文[1)]・池田　雄斗[2)]

1）本学地理・環境専攻　教授　　2）本学大学院人文科学研究科修士課程

はじめに：今回の海外巡検の特徴

国士舘大学地理学教室では、「国際交流セミナー」の名称のもとに、2001年におけるフィリピンのデラサール大学との交流、2004年における台湾の中国文化大学との交流、2007年におけるフィリピンのデラサール大学との交流（2回目）と、過去3回にわたり海外巡検を実施し、定期的行事として定着させてきた。通算4回目となる2010年度は、中華人民共和国（以下、中国と表記する）の大連外国語学院との交流を中心に、9月6日から13日まで7泊8日の日程で行われた。

2009年10月に、今回の海外巡検の企画・担当者が内田と決まり、まず期間や旅行費などの面を考慮して行き先を検討した結果、2010年度は中国の遼寧省および河北省をフィールドとし、世界遺産を中心に観光資源の豊富な諸都市を巡りながら、中国における近年の観光の実態調査や、風景の観察をテーマに設定して企画することにした。

今回の海外巡検の特徴のひとつは、過去3回の国際交流セミナーが海外提携校の所在地を中心とした滞在型の日程であったのに対し、複数の都市を移動する周遊型の日程を組んだことである。今回の巡検では、約1週間で大連～北京までの約1,000kmを列車とバスを駆使して長距離移動をし（図1）、瀋陽故宮博物院・昭陵・

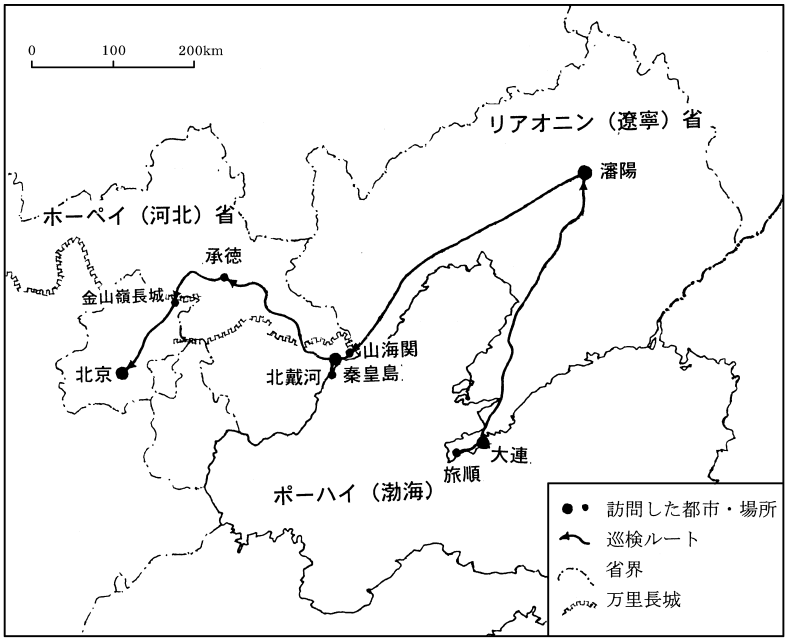

図1　巡検のルートと訪問地

山海関・老竜頭・承徳避暑山荘・外八廟・金山嶺長城の７カ所の世界遺産をはじめ、中国北部のさまざまな景観・風景を実際に体験することを目的の一つとしている。また、講義『旅の地理学』および『レクリエーションと環境』の海外における実践・実習として、訪問地に承徳・秦皇島・金山嶺長城といった通常のパックツアーではまず行かない場所を組み込むことで、実際の中国文化や、ありのままの中国人の生活の一端を観察することができることも大きなポイントであった。

もうひとつの特徴は、過去３回が海外の地理学教室との国際交流だったのに対し、今回の交流相手には、あえて大連外国語学院の日本語学科を選んだことである。これは過去の国際交流において、交流先での講義や行事が基本的に英語で行われたために、参加学生の多くがせっかくの内容をあまり理解できなかったことを踏まえ、日本語を学んでいる日本語学科の学生を交流相手とすることで、こういった言語の問題を解消しようとしたものである。

巡検実施までの準備

2010年3月13日の国際交流センター運営委員会で今回の研修案が採択され、予算も満額ついたことで、実施に向けた準備が本格化した。過去３回の例を見ると、航空券の手配等は国際交流センターで斡旋してくれていたようだが、今回は直接提携校との交渉に関わる部分以外の諸手続についてはこちらの自由裁量に任されたため、航空券及び現地での宿泊と移動については、HIS海外団体旅行営業グループ 新宿営業所で手配した。

今回最も困ったのは、募集人員10名のところ、参加者が定員まで集まらなかったことである。募集開始の時期などは、過去３回と比べても決して遅くなかったのだが、参加希望者の数はなかなか増えず、当初予定していた募集の締切を10日ほど延ばしたものの、希望者は６名より増えず、さらにその後１名がキャンセルしたため、最終的には学部生４名（すべて１年生）と大学院生（M1）１名の５名となり、引率も内田１名で行うことにした。希望者が少ないことについて、数人の学生に理由を聞いてみたところ、内容に興味はあるが10万円前後の旅費が出せないという意見が多かった。この旅程で10万円という価格はむしろ格安といえるのだが、一昨年のサブプライムローン問題以降長引く不景気の影響がこのようなところにも出てきたのかもしれない。その後、参加学生には基本的にｅメールを通じて連絡を行い、旅行参加申込書などの書類のやりとりを行った。

6月下旬には参加人数が確定したので、7月13日に国際交流センターより海外旅行保険についての説明会が開催され、国際交流セミナー参加申込書などの提出を行い、国際交流センターを通じて提携校の大連外国語学院との交流内容についても具体的な交渉の段階に入った。過去の例と異なり、はじめから提携校の誰かに個人的な知り合いがいたわけではなく、提携校を訪問して交流を行うのは実質１日のうえ、こちらの人数も６名なので、交流会とエクスカーションおよび小規模のパーティを行事として希望していたのだが、７～８月が先方の夏期休暇に当たるとかで、なかなか先方とのやりとりが進まぬまま、日が過ぎていった。結果的には、9月3日になって先方から、学年始めの多忙を理由に今回の交流行事を辞退するという連絡があり、応急の処置として、国士舘大学大連弁事所の職員である趙毅氏がかわりに対応することとなった。

参加学生に対する説明会は、一回目が8月4日で必要書類の提出や夏期休暇中の課題等について説明し、二回目は9月4日に開催し、出発前の最終確認を行った。

海外巡検の実施内容

2010年９月６日（月）　天気：曇り

４名の学生と１名の院生そして引率教員１名は、1130に成田空港出発ロビーに集合の後、1320発のCA952便で中国へ出発した。機は予定より１時間遅れの1635に大連空港に到着。着後、現地ガイドと合流し、専用車で大連港へ向かった。1700の閉館ぎりぎりで大連港務局へ入場し、屋上から大連港を一望した（写真１）。しかし展望もそこそこに連れて行かれたのは、同じ港務局の中にある真珠の販売所。さらに入場料20元も請求され、想定内とはいえいきなりの中国商法に面食らう。1730にここを出て、大連賓館へ移動後、黄昏時の中山広場を30分ほど見学する。曇天の上に、汚染の影響か大気自体が霞んでいるためか、1800過ぎでかなり暗いので、1830には宿所（渤海明珠酒店）にチェックイン。少々休んだ後、市内で人気のレストラン「大地春餅店」で東北料理を堪能した。９皿でた料理の大半を平らげ、学生たちも中国での最初の食事に満足した様子だった（写真２）。食後、専用車で緑山公園へ行き、大連市街の夜景を眺めた後、宿所へ帰って日程を終わる。

９月７日（火）　天気：曇り

早朝630より、旧ロシア人街や天津街など、ホテル周辺の大連旧市街を歩いて巡検する。綺麗に整備された観光用の街並みと、そこから路地一本それた昔ながらの住民区の汚さとのギャップに学生たちも驚いていた。800過ぎに宿所へ戻り、朝食後の930、国士舘大学大連弁事処の趙毅さんとホテルロビーで落ち合う。まず学生たちの希望に従い、大連站北口にある中国銀行で、人民幣を手に入れる。再び南口へ移動して市内バスで星海広場へ向かう。星海広場周辺は大連の新市街でもあり、新品の国際展示場や洒落た商業施設とともに高級なマンション

写真１

写真２

が林立していた。1050より40分ほど周辺を見学後、２台のタクシーに分乗、時速100kmで40分ほど走って旅順地区の郊外にある大連外国語学院に到着。趙さんが急遽集めてくれた日本語学科の女子学生４名と合流し、全員で昼食を摂りながら、自己紹介や学生同士の意見交換などの交流を行った（写真３）。２時間ほど学院内で歓談した後、旅順口市街へ移動して、二〇三景区や軍港公園などを一緒に巡り、お別れに旅順新市街地区のフードコートで夕食会の後、1900のバスで大連へ帰る。大連駅北口着は2020。このあと地下街の勝利商場へ向かうが、閉店時間のため諦めて宿舎へ戻り、いろいろとお世話になった趙さんに丁重に礼を述べ、この日の日程を終わる。

写真 3

写真 4

9 月 8 日（水） 天気：晴

2 泊した大連に別れを告げ、800発の列車で瀋陽へ移動する。30年前同様てっきり軟座侯車室へ通されてお茶でも出るのかと思ったら、人でごった返した巨大な侯車室から改札を通ってホームへ降りるだけ。列車を見ると、全ての車輛が軟座で、しかも禁煙だった。4 時間の列車の旅の後、1200定刻に瀋陽到着、現地ガイドと落ち合い、まずは宿所（金都飯店）へチェックイン。公共交通機関と徒歩で街を巡りたいというこちらの意向を、ガイドになかなか理解してもらえず苦労するが、何とか彼を説き伏せて、1350まずは清朝 2 代皇帝ホンタイジの陵墓（昭陵）のある世界遺産北陵公園へ。ここを 1 時間余りで見学し、つづいて1550には 2 つ目の世界遺産である故宮へ（写真 4）。さらに日没前の1700には繁華街である中街などを精力的に見学した。1820地元の人で一杯の店で東北料理を食べ大満足、帰り道には 3 階建ての大型スーパーに立ち寄り、見学兼買い物をして宿所へ帰った。学生たちも少しずつ中国に慣れてきた様子である。

9 月 9 日（木） 天気：晴

900発の超高速鉄道（いわゆる新幹線）で山海関へ移動。わずか 2 時間の乗車で300km以上離れた山海関駅に到着。今後北京までのお付き合いとなるガイドの王さんと運転手の苑さんと合流した後、早速天下第一関を見学、ここは世界遺産でこそないものの、西域の嘉峪関よりつづく万里の長城の東端にあたり、中国ではよく知られた観光地である。1300長城が渤海へと沈む老竜頭へ移動して、1 時間ほど見学（写真 5）ののち秦皇島市へ車で移動、1430宿所（国際飯店）に到着。休む間もなく1500より学生とともに市街を徒歩で巡検・探索した。1830この日はホテルで夕食の後、宿所で「中国における景観と文化」のテーマで講義を行った。

9 月 10 日（金） 天気：晴

730専用車で北戴河へ移動、鴿子窩景区と老

写真 5

虎石水上公園を見学。950承徳へ向かって出発、途中いくつかの少数民族の自治県を通過しながら、7時間以上の長旅を経て1600承徳に到着。着後、日没までの貴重な時間を利用して1720まで普陀宗乗之廟（写真6）を見学後、宿所（雲山飯店）へ移動して、夕食。さらに有志を連れて、1930より2100まで夜間の承徳市街を巡検した。

9月11日（土）　天気：晴

この日は終日徒歩で承徳市内を巡検した。750宿所を出て、外八廟のうち普楽寺・安遠廟・須彌福寿之廟・普寧寺・普佑寺と磬錘峰風景区を巡る。外八廟の景観は世界遺産の名に恥じない素晴らしいものだったが、これらの寺社の入場料の高騰も甚だしく、高いところでは120元（日本円で約1700円）もして、昨年のデータと比べても1.5～2倍になっていた。にもかかわらず、中国人の団体観光客はひっきりなしに入場しており、そのことにも驚かされた。1400市街地へバスで戻って、承徳最大の見所である避暑山荘を見学、広大な敷地を歩き、最後は高台から山荘を一望して巡検を終了した（写真7）。1830より市内で夕食後宿所に帰り、「中国における世界遺産の意義」のテーマで講義を行った。

写真6

写真7

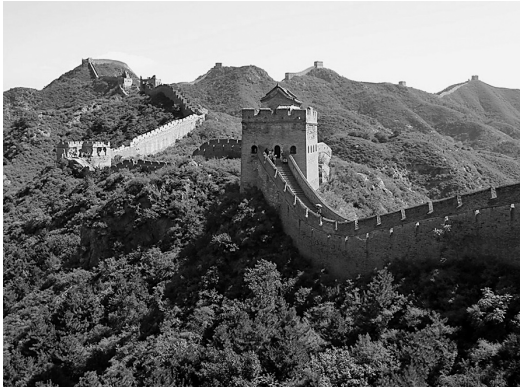

写真8

9月12日（日）　天気：晴

730専用車で承徳を出発、京承高速を通って840金山嶺長城風景区に到着。索道で長城付近まで登った後、2人ずつの班に分かれて、それぞれ金山嶺長城を巡検・見学した（写真8）。1250集合の後、再び専用車で北京へ向かい、1520北京市内の餐庁で昼食の後、宿所（京倫飯店）へ移動。1650より希望者を連れて北京中心部を巡検。前門、天安門広場、王府井などを巡って、2100宿所へ戻った。

9月13日（月）　天気：晴

この日は最終日なので、2人一組の班に分け、1430まで自由行動とした。学生たちは自

力で北京の世界遺産「故宮」などへ行ったようである。1430ホテルロビーに集合の後、専用車で北京首都空港へ。1530チェックイン後、出国手続きを済ませ、1725発のCA183で、1週間滞在した中国に別れを告げた。機は予定より30分遅れたが、2150無事羽田空港国際線ターミナルに到着し、今回の海外巡検は無事に終了した。

学生の感想・評価

巡検の終了後、参加者全員に対してアンケート調査を行い、今回の海外巡検の感想・評価について尋ねた。アンケートの質問全9項目と、それに対する回答は以下に示すとおりである。個人名の記載など、報告書として編集するうえで不適切な箇所は部分的に修正したが、回答のほとんどは生の声として、そのまま掲載した。

質問1
今までに海外旅行に行った経験はありますか。ある場合はその国名（都市名や回数も分かれば）と、簡単な訪問理由をすべて記入してください。
例）アメリカ（ロサンゼルス）1回、ホームステイ　／　台湾（台北）2回、観光　etc…

回答
・マレーシア1回（観光、ただし自分が1歳の時に行ったため記憶になし）
・マレーシア1回（修学旅行）、西安1回（観光）、韓国1回（観光）、ハワイ1回（観光）
・ハワイ、グアム、サイパン　それぞれ1回（観光）
・ロサンゼルス1回（ホームステイ）

質問2
中国巡検で訪問した場所のなかで、印象に残った地区、関心を持った地区を下記の地区名の中から3地区選び、その番号を回答欄に記入してください（順不同）。
①大連市（港方面や繁華街）
②旅順口区（二零三景区や旅順港）
③瀋陽市（世界遺産「瀋陽故宮」「昭陵」）
④秦皇島市（世界遺産「山海関」「老竜頭」や海浜リゾート北戴河区）
⑤承徳市（世界遺産「避暑山荘」「外八廟」）
⑥金山嶺長城（世界遺産「万里の長城」）
⑦北京市（世界遺産「北京故宮」や天安門広場、王府井繁華街）
⑧その他

回答

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
回答数	1	0	1	0	3	3	4	0

質問3
上記で回答した3地区について、なぜ印象に残ったのか、なぜ関心を持ったのか、それぞれ説明してください。（字数制限なし）

回答
①旧ロシア人居住区において、メインストリートは煌びやかな一方で、一歩路地裏に入ると悪臭が漂う低級住宅地区になり、中国の経済格差と歪な社会経済構造を目の当たりにしたため。
③世界遺産が印象的だったから。
⑤避暑山荘において、「勿忘国恥」という碑文が強く印象にのこり、歴史に刻まれた中国人の思考の根底にある性質を垣間見たため。
⑤外八廟は今まで見たものとは違い、チベット様式だったので珍しかった。建造物のいたるところにチベット語で書かれたカラフルな旗が吊るされていたのが印象的だった。

⑤この日が一番ハードでした。しかし、いろいろな場所をたくさん歩いたから辛かっただけで、自分にとってはいろいろな世界遺産をたくさん歩いたという滅多にできない経験の方が圧倒的に勝っています。こんなに充実した一日はなかなかないだろうと思えるような一日でした。この日の最後に、避暑山荘の山から見た景色は脳裏に焼き付いています。感動的な景色でした。

⑥何千キロもあるうちのたった一部だが、今まで写真でしか見ることのなかった万里の長城を自分の足で登ることができた。崩れているところなどを歩くと、人の手によって造られたことを改めて実感した。また、日が照っていて暑かったけれども、高い位置から大自然を眺めたときには登った達成感があった。途中さまざまな国の人と話す（あいさつを交わす）ことができたのも非常にいい経験だった。

⑥やっぱり写真で見るのと実際に行くのは物が違うな……と感じました。眼下に広がる大自然と、万里の長城独特の傾斜、上ったり下りたりを繰り返すだけなのですけど、それがたまらなく楽しかったです。

⑥自分の足で万里の長城に登って心に残ったから。

⑦8日目のように完全に学生だけに任せて自由に行動しろという緊張感がたまらなかったです。また、行動する場所もあの北京で観光できるバリエーションも非常に多く、どこを観光するかも選べたので、そういうところも含めて楽しかったです。最高の最終日でした。

⑦中国国際貿易センターなど北京市の中でも屈指の高級ショッピングセンターを訪れ、近年目覚ましく成長する中国の経済発展ぶりを目の当たりにしたため。

⑦時間に限りがあって1つ1つちゃんと見ることができなかったが、北京故宮の屋根瓦に10匹の像がいることに驚いた。この像が多いほどそこに住む人の地位は高いのだが、故宮の広さや建造物の造りの細かさを見て、10匹である理由を実感した。実際に見ないとわからないおもしろさが発見できてよかった。

⑦街並みが近代的でショッピングも楽しめたから。

質問4 中国に行く前に想像していたことと、一番違ったことはどういうことですか。 （自由記述、字数制限なし）

回答

・中国のコンビニエンスストアにおいて、レジの機械に薄型の液晶パネル画面が導入されていた。比較的最新と見られる機器が小売の店舗に導入されていることに、中国はここまで経済成長を遂げているのか、と驚いた。

・自分は過去に一度中国を訪れたことがあるので交通マナーや大気の悪さはだいたい予想できていたのですが、やっぱり、2回目でもその2点は思ってしまいました。でも、一番想像していたことと違ったのは、料理のおいしさです！以前行ったときはツアーで行ったので「中華料理はおいしいけどこんなものか……」という印象でした。しかし、今回さまざまな方々に連れて行ってもらったレストランなどでの料理は本当においしく、いつまでも食べられるような味でした。

・中国にも貧富の差があることは知っていたが、旧ロシア人街の裏通りを歩いた時は自分たちとはあまりに違う生活にショックを受けた。家も崩れていて道もゴミだらけでとても生活できるような場所ではなかったが、貧しい人たちはそこに住むしかないという現実を、歩いていて実感した。

・最初は「大連」という地名を知らず、留学生からも見るものはあまりないと聞いていたの

だが、はじめに着いた都市ということもあり、実際には見て驚くことがたくさんあった。何もないと聞いていた大連で建設ラッシュが起こっているのも意外で、町にはクレーンが多くみられた。また、観光地とそうでない場所の景観への配慮は実際にみると違いがよくわかり、見ていて興味深かった。

・衛生面、交通事情、スラム。あらゆるところで適当感が見受けられたことと、貧富の差が自分の想像をはるかに超えていて驚いた。

質問 5
7 泊 8 日の観光経験のなかで、旅行におけるトラブルに多く遭遇したと思います。行程中、どのようなトラブルで苦労したのか記入してください。（3 項目以内、字数制限なし）

回答

・スーパーにおいてレジ袋が有料であり、中国語でレジ袋が必要かどうか聞かれた（と予想される）ため、最初は意味がわからず戸惑った。

・トイレにおける日本との差異に苦労した。

・まず言えることは体調面の問題です。自分はこれでも少しは体調面で自信があったんです。小中高と野球部で鍛えてきて、海外への渡航歴もわずかながら有り、体調面で苦労することは少ないだろうな…と踏んでいました。しかし、実際そうはいかず、油の多い中華料理を毎日食べていると体調を崩してしまいました。今回は友達の持っていた胃腸薬に救われました。

・今回は言語の壁に困らされました。自分に中国語のスキルが全くないというのがそもそもの問題なのですが、英語の重要性にも気づかされました。今回旅をするうえで露店を利用することが幾度となくあったのですが、中国語が話せないならせめてもの英語で…と思って話しかけても、相手は全く英語がわからないようでした。北京などではもちろんそういうことはないのですが、今回選んだ地方の観光地では、まだ英語も浸透していないのかと驚かされました。いままで行ったことのある海外の観光地は、いずれもメジャーなところで、そこの露店の売り子の人は英語どころか流暢な日本語を話していました。そういったイメージが先行していたので、今回の旅では言語の壁を知ることになりました。

・そういう文化なので、しょうがないとは頭でわかっていても、やはり帰国して友達に中国で何が一番きつかった？と聞かれると「交通マナーが悪いねー」と答えてしまいます。歩行者にとっても中国の大きな道を横断するのは、慣れてない日本人からすれば決死の覚悟が必要ですし、車対車の問題でも、3日目の18時ごろ乗ったバスで大渋滞に巻き込まれたことが強く印象に残っています。あの時は列が進まないし、誰も譲らないし、でどうなることかと思いました。渋滞の原因も路上駐車であり、渋滞中も路上駐車が多発。あの中は絶対に運転できないな…と思いましたね（笑）。中国の交通マナーは悪いです、でもそれは日本で育ってきた自分だから感じることで、中国の人にとってはあれが普通なのだと考えると、ああいう交通もアリだな…と思います。

・携帯電話などの連絡手段がないために、待ち合わせがうまくいかないことがあった。

・ホテル内で、シャワーの使い方や電気のつけかたが分からない時があった。

・言葉が通じなくて困ったことが時々あった。英語や身振り手振りで通じることもあったが、もう少し勉強しておけばよかったと思った。

・賞味期限切れの飲み物を飲んで体調が悪くなった。

・トイレが汚い。

・信号がないため、道路を横断するのに苦労した。

質問 6
今回の「国際交流セミナー」に参加するうえで、どのような事前準備をしましたか。①学習面において、どのようなテーマを持ち、事前学習をしたのか。②一週間の旅行に対する旅の準備（荷づくりなど）をするという視点での感想。以上の 2 点を自由記述してください。

回答

［学習面］

・中国の政治・法体制や経済について、新書版や受験生時代の参考書などの本を読んだり、インターネットで調べた。また、日露戦争の激戦地・二〇三高地や大連市を訪れると聞いたため、日露戦争に関する事も調べた。
・今回は巡る場所の天気や、ホテル、またはホテルの周辺の施設などを調べて中国語も勉強したのですが、いざとなっては緊張して全然話すことができませんでした。せっかく、周りに中国人留学生がいるという恵まれた環境にいるので、そういう方々にもっと中国語を教わっておけば…と思いました。何から何まで勉強不足だったような気がします。
・世界遺産に興味があったので、今回行く予定になっていたところは一通り調べた。調べたうえで興味をもったものはさらに詳しく調べ、現地に行ったとき理解を深められるようにした。
・甘党なので、どんなスイーツ、お菓子があるか調べました。食後にはスイカが定番だということは初めて知りました。

［旅の準備］

・引率教員からなるべく荷物を少なくするよう指導されて、持っていく衣類の量などに気を配った。
・胃腸薬や整腸薬などは必須だと思い、携行した。薬品について何が必要になるかを想定した。旅の準備に関しては、指導教員から常々少なくするように言われたので少なく収まるような努力をしました。今までの旅行は、海外なら必ずスーツケースにパンパンに荷物を持っていったし、国内であってもスーツケースを使ったりしていました。しかし今回は少なくしなければ……と結構悩みました。やっぱり、かさばる衣類を大幅に削減する以外に方法がないのです。持って行った衣類は4日分だけ、それを洗濯しながら使いました。また、靴下は足を怪我して出血したりしていたので、汚れてしまい、捨てながら旅をしていました。こういって持ち物を現地で捨てて行ったりしたことで、最終日で買い物をしてもまだ許容範囲に収めることができました。
・先生のアドバイス通り衣類はなるべく少なくして、その他貴重品以外はあまり持っていかなかった。最初は少なすぎるような気もしたが、実際に行ってみてもっと少なくしてもよかったなと思った。初めての中国なので食べ物が心配で、屋台で軽食を買うのも怖かったので日本からお菓子などを持っていったのだが、それも小腹がすいたときなどに役立った。
・何が必要なのか、また減らせるのは何か頭の中で整理するのが大変でした。海外旅行で荷物少なかったので少し不安でした。

質問 7
「国際交流セミナー」は現地を見て学ぶことと同時に、学生の交流も重要な要素になっています。今回、あなたが大連外国語学院の学生と交流した際の感想や意見を記入してください。（自由記述、字数制限なし）

回答

・中国の学生の人数や語学力、趣味などが事前に分かればもっとレクリエーションを考える

ことができた。

・まず驚いたのが大学の規模です。あんなに大きな学校で、1学年1000人もの生徒が日本語を学んでいるというのに驚きでした。また、交流の時に聞いた話で日本のものが流行する傾向にあるというのにも驚かされました。あのようなマンモス校で、全員が寮で学食も多く揃っていて生活に困らない環境にあるというのは、勉強するのに最適な環境だなと思いました。また、現地の学生との交流では中国の学生、中国の人々で一般的なことを気軽に知ることのできる最高の機会でした。また、今回は初めてだったのであまりしゃべることができませんでした、こんな機会はまさにこういったセミナーに参加しないと無いものなので、次にこういった機会があれば、その時も参加してみようと思いました。

・最初はお互い緊張していたが、話し始めるとフレンドリーでとてもおもしろい人たちだった。4人しかいなかったが、みんな日本に対して色々な興味を持っていて、その話を聞くのは楽しかったし、勉強になることもあった。日本のどこに一番行きたいかと聞いたとき、意外にもディズニーランドなどよりも北海道という答えが出て驚いた。

・お互いに緊張していたため、あまり会話ができなかったことが残念でした。
交流の時間がもっと欲しかったです。

質問8
今回の「国際交流セミナー」について改善点がありましたら、その項目と理由を記入してください。（3項目以内、字数制限なし）

回答

・引率の教員が文化地理学の教授ということもあり、中国の歴史や文化についての巡検が中心だった。もっと経済に関することを盛り込んでほしかった（例：経済特区の産業集積や日本企業がどのように進出しているかなど）。

・月餅も食べられたし、気候的にも考えて最高のタイミングで中国に行ったと思いましたが、いかんせん夏休みの最後ということで、個人的に始業までの日数が足りなかったです。やはり、中国巡検の後のダメージは大きく、結構長引いてしまいました。次はもうちょっと大学まで余裕のある日程で行きたいです。

・8日間で体調を崩しておいて言えることではないのですが、もっと長い間いたかったです。今回の旅は本当に文句のつけようのないくらい最高の旅でした。なので、次はもっと長くてもいいんじゃないかな…？と思いました。旅全体に余裕を持たせるのもいいし、もっといろいろな場所を巡るのもいいし、もっと長い間旅をしていたかったです。

質問9
次回（2013年度を予定）も本地理学教室の「国際交流セミナー」が開催されるとしたら、どこの国（都市でもよい）を訪問してみたいですか。その理由も簡単に記入してください。（自由記述、字数制限なし）

回答

・経済地理を主眼においたセミナーならば、ＥＵ圏内に行きたい。関税障壁撤廃や域内格差・国家の主権に関する問題などＥＵがもたらしたメリットや問題点などについて現状を知りたいため。また、金融やＩＴ・ハイテク産業集積など経済地理や特に工業地理に関する事を現地に訪れて調べたい。アラブ諸国など中東の石油産出国にも行きたい。油田立地に関することやオイルマネーを利用して金融や観光・ＩＴなどどのような事に投資しているかを調べたいため。自然地理を主眼におい

たセミナーならば、ロシアの特にウラル山脈以東のシベリアやオイミャコンに行きたい。ツンドラ気候下の植生・生態や、寒極がどのような場所か見てみたいため。ナミブ砂漠かサハラ砂漠の特にタハト山に行きたい。砂漠の生態や砂漠にある高地・山はどのようなものか見たいため。南極にいきたい。人類がいまだかつて永住したことない地に足を踏み入れて、氷河・氷床など極地の生態や気候・地形に関する調査をしたいため。

・ものすごくアバウトで申し訳ないのですが、南米と中東に行ってみたいです。この旅はパックツアーで行くようなものではないので、逆にそういうところで行けない場所に行ってみたいのです。こういう巡検で南米と中東に行くのは素晴らしい経験になると思います。

・アメリカ合衆国。ハリウッドや自然遺産など自分の興味がある場所が多いので、ぜひ一度は行ってみたい。アメリカの料理やファッションなどさまざまな文化にも興味があるので、実際に行って見て学びたいと思う。

・オーストラリア。グレートバリアリーフとコアラが見てみたい。南半球の国に訪問したい。

結びにかえて

今回の海外巡検を通じて、当初の目的としていた『旅の地理学』『レクリエーションと環境』の実践・実習としての役割は十分果たしたと思われるし、意図的に日本人観光客の少ない（しかし中国人観光客は非常に多い）観光地を目的地に選択したことで、現代中国や中国文化の実態をよりリアルに見られたことは貴重な体験であった。また、学生の多くは中国が初めてであり、最初の頃こそ日本とあまりに違う中国の文化に当惑したり躊躇したりする場面も多かったようだが（とくに車優先のため歩行者信号が事実上機能しない「危険な」交差点にはショックを受けたようだ）、最終日には引率者なしで街を自由に歩けるほどにまで順応することができたようである。

今回の中国巡検は、大連外国語学院との交流という部分では、直前に先方から断られるなど、十分な効果を上げられない面もあったが、国士舘大学大連弁事所の趙さんが奔走してくれたおかげで、むしろ個人レベルでの国際交流ができたのではないかと思う。それ以外には大きなトラブルは皆無で、予定した日程通りに目的地を廻ることができた。帰国後１週間ほどして尖閣諸島での中国漁船衝突事件が起こり、その後大きな騒ぎになったことなどを考えると、今回の中国巡検は実にベストなタイミングだったと言えよう。また、天候の面では行程中一日も雨の日がなく（同期間中、上海周辺などは記録的な大雨が連日つづいていた）、ハイライトである承徳・金山嶺・北京の日程後半がすべて快晴だったことは、たいへん幸運であった。

最後になったが、今回の海外巡検の実施にあたって、国士舘大学国際交流センターの沈柱仁さん、同大連弁事所の趙毅さん、ＨＩＳの佐藤奈緒子さんにたいへんお世話になったことを記し、感謝の意を表したい。